

高圧線への防護管取付パターン判定ツール

【本資料の使い方】

本資料は、お客さまが高圧線に防護管取付をお申込みいただく際に、取付までに必要な日数を判別するための資料となっております。
 下図および写真をもとに、2ページ以降の赤塗している高圧線への防護管取付希望の有無をご確認いただき、申込画面『高圧線への防護管取付のパターン』へチェックをお願いいたします。
 (下図および写真において、2ページ以降の赤塗している高圧線への防護管取付を希望される場合は、広範囲の停電が必要となるため、**31営業日前**のお申込みが必要となります。)

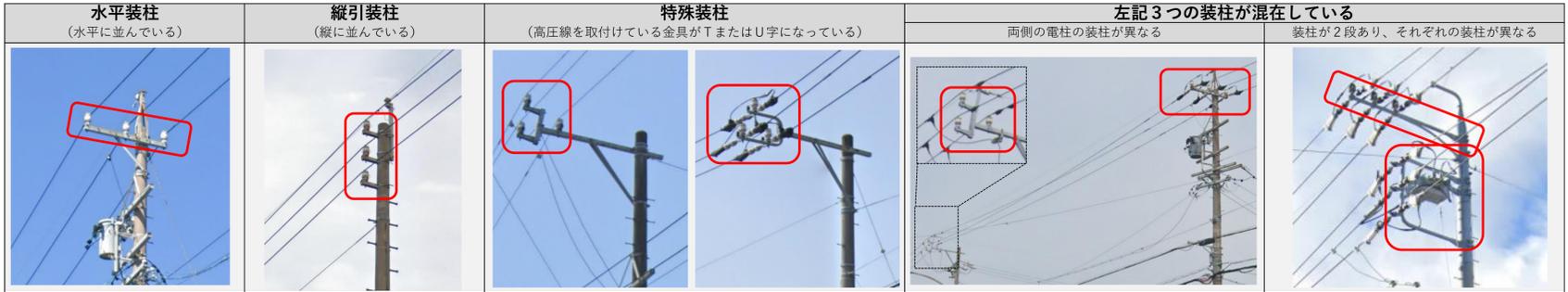
確認結果	申込画面へチェックするパターン
赤塗している高圧線への防護管取付希望がない	パターンA
赤塗している高圧線への防護管取付希望がある	パターンB

【留意事項】

本ツールは電柱間ごとの高圧線に対し使用いただき、複数の電柱間の高圧線の判定結果、パターンAおよびパターンBが混在した場合は、「パターンB」を申込画面『高圧線への防護管取付のパターン』へチェック願います。

【ご確認の前に】

- 「装柱」とは
 高圧線を電柱に固定するために使用している金具の形態のことを示します。
 <現場参考例>



- 「回線数」とは
 高圧線が同一方向に向かって施設されている回線の数を示します。
 ほとんどの高圧線は、1回線が3本の電線で施設されておりますが、現場によっては、1回線が2本の電線で施設されている場合もございます。
 <現場参考例>



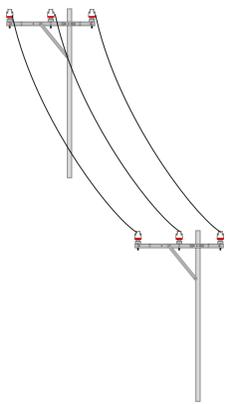
- 「防護管取付位置の直下がすべて道路横断している」とは
 防護管を取付希望する高圧線の位置が民地上空に一切かからず、道路上空のみを通過している状態を示します。
 <現場参考例>



回線数：1回線

水平装柱

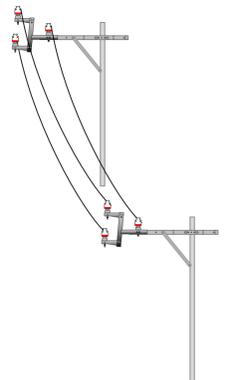
<全景例>



	装柱例① 真ん中の高圧線が電柱の中心についている	装柱例② 高圧線の2線のみが道路側に出ている	装柱例③ 高圧線が3線とも電柱の道路側に出ている
道路側			
民地側			
	—	高圧線の2線のみが民地側に出ている	高圧線が3線とも電柱の民地側に出ている
道路側			
民地側			

特殊装柱

<全景例>



	装柱例① 高圧線の金具がT字の金具を使用している	装柱例② 高圧線の金具がU字の金具を使用している
高圧線3線が道路側に出ている		
高圧線3線が民地側に出ている		
道路側		
民地側		

縦引装柱（金具種類および道路側民地側を問わない）

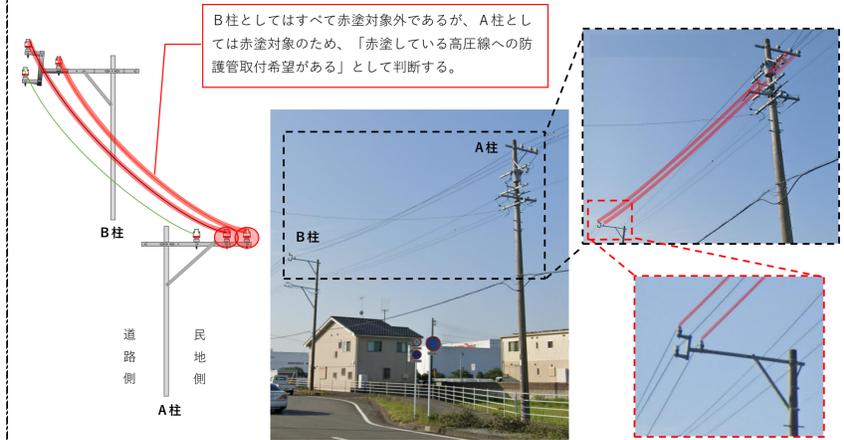
<全景例>



防護管を取付する高圧線の両側の電柱の装柱が異なる場合

水平装柱・縦引装柱・特殊装柱の赤塗箇所において、片方の装柱が赤塗箇所に該当しなくとも、もう片方の装柱に赤塗箇所が該当する場合は「赤塗している高圧線への防護管取付希望がある」となります。

<下図は異なる装柱の一例です>



※上記図面では、電線を識別できるように電線の色を分けて図示しておりますが、実際の電線は黒色です。

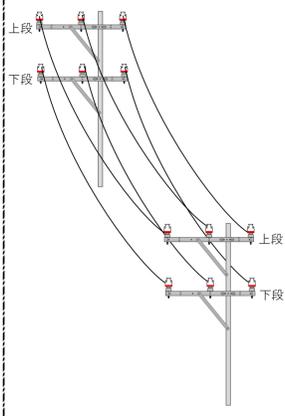
★ 防護管取付位置の直下がすべて道路横断している場合

1回線において、防護管取付位置の直下がすべて道路横断している場合は、赤塗される高圧線はありません。

回線数：2回線

水平装柱

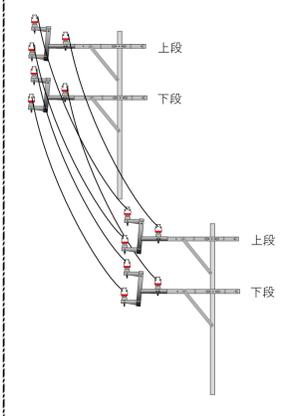
<全景例>



装柱例①	装柱例②	装柱例③
真ん中の高圧線が電柱の中心についている	高圧線の2線のみが道路側に出ている	高圧線が3線とも電柱の道路側に出ている
	高圧線の2線のみが民地側に出ている	高圧線が3線とも電柱の民地側に出ている

特殊装柱

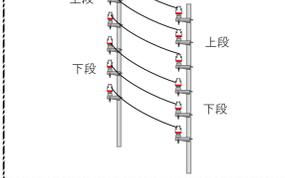
<全景例>



装柱例①	装柱例②
高圧線の金具がT字の金具を使用している	高圧線の金具がU字の金具を使用している
高圧線3線が道路側に出ている	
高圧線3線が民地側に出ている	

縦引装柱（金具種類および道路側民地側を問わない）

<全景例>



防護管を取付する高圧線の両側の電柱の装柱が異なる場合

水平装柱・縦引装柱、特殊装柱の赤塗箇所において、片方の装柱が赤塗箇所に該当しなくとも、もう片方の装柱に赤塗箇所が該当する場合は「赤塗している高圧線への防護管取付希望がある」となります。

<下図は異なる装柱の一例です>

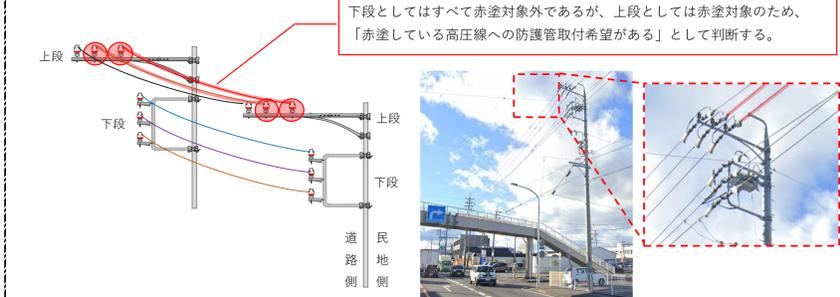


※上記図面では、電線を識別できるように電線の色を分けて図示しておりますが、実際の電線は黒色です。

防護管を取付する高圧線の上下段の装柱が異なる場合

水平装柱・縦引装柱、特殊装柱の赤塗箇所において、上下段のうち、それぞれの装柱をご確認いただき、いずれかに赤塗箇所が該当する場合は「赤塗している高圧線への防護管取付希望がある」となります。

<下図は異なる装柱の一例です>



※上記図面では、電線を識別できるように電線の色を分けて図示しておりますが、実際の電線は黒色です。

★ 防護管取付位置の直下がすべて道路横断している場合

2回線において、防護管取付位置の直下がすべて道路横断している場合、上段が水平装柱（金具の種類問わない）かつ中線に取付する場合に限り、赤塗対象となります。

<全景例>

